



Ta, Da, Ça ~un texte amoureux~

Callas Cenquei

version d'évaluation

このファイルは P.P.Content Corp. 社刊行書籍のトライアル版です。このファイルは、読者が当社刊行図書の購読を検討する場合に限ってのみ利用できます。一般に広く無料で公開されているわけではありません。このファイルおよびこのファイルに入力されている電子的データの著作権は、著者ならびに当社に帰属します。あなたがこのファイルを第三者に提供すること、公開すること、頒布することは禁じられています。

Librairie P.P.Content Corp.

Maison d'édition en ligne / Livres numériques et édition électronique

Ta, Da, Ça ~un texte amoureux~ / Ouvres complètes de deuxième vernissage



Ta, Da, Ça ~un texte amoureux~

~ Ouvres Complètes du Deuxième Vernissage ~



chapitre 3

Ta, Da, Ça ~la chambre numérique~

chapitre 1er | chapitre 2 | chapitre 3 | chapitre 4

建礼門院雪子さまのお写真は幼年期のわたしをひどく不気味がらせた。さるこ華族さまのお側仕えをしていたわたしの曾祖母が地方の豪農のもとへと嫁入りした折りに「お家」から拝領したものであるらしいそれを、東納と呼ばれるわたしの家の小さなお蔵に父が見いだしたのは、彼が事業に失敗して彼の地所を手放すよりもまだずいぶん前のことであるらしい。それが何の事業であったのかわたしはよく知らないが、まだ暑い夏の夕刻に暮れかねて、わたしの家の土塀の門のかたわらで茫然とたたずんでいた男のことは、その恰幅のいい背のひるがりとともにわたしはよく憶えている。思えば、この家はずいぶん地所を手放してきたものだ。戦後の農地解放でそのあらかたを失い、祖父の放蕩でそのことごとくを手放し、幼年期のわたしを高台につれて見晴るかす地平を指差し、ここからここまですべて昔は他所の土地を踏まずに歩いてゆけたものだと誇らしげに語った父が、残った地所のいくつかを手放し、数代にわたってわたしの家はしおしおと痩せていったもののように思われる。その痩せた家に残された建礼門院雪子さまのお写真は、白い掛布でおおわれた黒い台紙の上に几帳面に留められ、その麗々しく古色をおびた写真のどこがそんなにおそろしいのか、まだ幼いわたしをそれは理由もなく怖がらせ、わたしが泣いて難がる時には、そんなに泣いてばかりいると雪子さまがお見えになりますよと言って無理に泣き止まされたものである。今にして思えば、幼いわたしが初めて間近に見た黒い人、白い人でにぎわう万国博覧会の眩しいほど壮麗な建築群が幼年期のわたしの明るいポジティブであるとするならば、建礼門院雪子さまのお写真は幼年期のわたしの暗いネガティブであるだろうことは間違いない。

あなたはするだろう。そのようにしてあなたはするのだろう。あわいなでこのドレスを着たあなたらしい女を、そのようにしてあなたはそこに吸うのだろう。よくわらうその女の口を、よくわらうその女の瞳を、しばしばみだれるその女の髪を、ドレスのしたでしなやかにはずむその女の胸を、そのようにしてあなたはそこに吸うのだろう。そうとう。そう。そうとうその女の息があなたのそこにしずかにみちよせて、その女のドレスを、あわいなでこのいろをしたその女のドレスをあわただしくそこにひもといてゆくだろう。そうとう、そうとう。そうとうあなたの息がその女からだをみずみずしくあらわにひもといて、そこに、その女からだのそこに、あおあおとしてゆたかなみどりをしずかにみちわたらせ

てゆくだろう。あおい風。あおあおとしてあわい風。あわあわとしてあらい風。その女のドレスのすそをはためかせるようにして、萌えさかる夏のはじめに、いちはやにさらってきたその女のドレスのうすい花びらをあらあらとそこに吹きちらしてなお、そのやわらかい蕊のさきに、そのやわらかい葉ずえのさきに、そのひめやかな受粉の期待にぬれるその女のやわらかなさきに、しずかに緑のしずくをしたたらせてゆくあなたのそのそれ。口を吸う。あなたの口を吸う。わらう。とてもよくわらう。そしてときどきいたいけをする。ときどきおさない子どもものうにはだかでいたいけする。そして耳もとに口をよせてたのしいとう。そう、そうして、そのようにしてはだかでいたいけするその女からだをあなたはそこにつよく抱きしめて、吸う。

写真は見る人を見つめ返す。写真を見る人の眼差しはしばしば写真のうえに折
りかえされる。わたしたちは写真を見ると、さながら写真に見つめられるよ
うにしてそれを見る。わたしたちは、見るべくして写真を見ているつもりであ
るが、しばしば見られるべくしてそれを見る。カメラという外在的な他者の眼
差しが、見る人をまた見られることの可能性へと差し向けるためだろうか。密
度の高い闇のなかで木目の模様を覗き込んだり、壁の染みを飽かず眺めつづ
ける子どものように、わたしたちは写真の肌目を覗き込み、食い入るようにして
それを見る。だが案に相違して、わたしたちはそのイメージに見つめ返され、
その光の染みに覗き込まれ、そこに、その紙の上に、そのつややかな印画紙の
上にわたしたちを映しこまれてしまう。Fixerと言つ。定着である。ダゲール
が暗い部屋にゆらめく光を銀の板に定着するテクノロジーを発明してから、光
は、その物質的な痕跡の物質性を唯一の論拠として、見るものを見据えてはな
さない。写真を見る人は、あたかも魅入られるようにしてそれを見る。時とし
て見入ることがまた魅入られることでもあるかのようにそれを見る。光によ
つてimpressionerされたイメージが見る人をimpressionerする。光を感じや
すいフィルムの上に定着され、印しつけられたイメージが、ふたたび反転像
として紙の上に焼き付けられるとき、見る人の脳裏にそれはつよい印象をあ
たえる。わたしたちは写真を見ると、まるで感光性のよいフィルムのようにそ
れのもたらずイメージに対してはなだ感じやすい性質をおびるようになる。
Impression' もしくはrépression'。その数度にわたるimpression'。写真は、奇妙
なことだが、しばしばわたしたちに、卒然として、海に波があるということの、
あるいは海には潮があるということの、あるいは遠からず近からずそこに
海があるということの、不意打ちにも似た驚きを告げ知らせる。前触れもなく
訪れてくるもの。あたかも南天に的礫と固定された満月が満ち潮を呼び寄せ
るように、そこに固着した痕跡は、わたしたちの海面をすかに引き上げ、わた
したちはしつこく息を入れられる。言葉の正確な反射がみちびくとおり、
fix fluxをよびおこすのだとこころいふ。

あなたはその女の胸を吸う。その女の胸の
あわいなでしこの蕊をあなたは吸う。その女の腋のすこしばか
り湿った暗さをあなたは吸う。愛しい女の肌もあらわなその場
所に触れつつ暮れる夏の日のあまいかげりをあなたは吸う。と
きどき吹きみだれるその女の髪があなたのほほをかすめること
もなく、ときどき耳朶にぬれるその女の髪があなたの指をこぼ
むこともなく、ひだりにむけ、そびらをかえし、あなたのそこ
に、その口もとに、またその耳もとに、その女の息を散らすあ
なたがたの夏の臥床にあなたは吸う。みずみずしくひもとかれ
たその女の肌のしずかなうるおいがあなたのうなじにめぐらさ
れ、もうとうにはだかであることにも飽いたその女の脚があな
たのそこにめぐらされ、まるで毛のないけものが縊れあうよう

におたがいのしずくをわかちあうあなたがたのそこに、さなき
だにおこるがごときあおおしさをましてあなたのそれは匂い
たつのであろうこと。あわあわしく、またあらしくたける
夏草の、そのにおうがごときあおおしさを、その女はしずか
に水辺へと、そのほとりへと、その女の水面につつる夏の日の
かげりへといざないつつ、ひとしおそこにあなたの口づけをも
とめるのであろうこと。吸ってほしいという。口を吸ってほし
いとその女のいう。いまいちどそこにあなたの口がほしいとそ
の女はいう。そう。そうして、そのようにして、おたがいの息
のあふれるところをかさねあわせて、あなたがたは、その時が
まさにその時であるということの、そこがまさにそこであると
いうことの、よろこびにみちて、しあわせにみちてする、それ。

花それじたいの美しさについてわたしはよく知らないが、写真に撮られた花の美しさについては多少なりとも知悉していると言えようかもしれない。もっともそれは、眠りに落ちた者の眠りをさざなみだてるようなありかたで知悉しているということであり、よく言えば知らないということである。あるいはそれは、掘り起こさなければ現われることをしない泉のようなものとして知っているということであり、またしたがって、そこにあるという確信のもとで確かに知らないということでもある。ロバート・メイプルソープの「静物」の美しさはわたしを魅了する。その刻々としりぞいてゆく光につかのまの静止をよびかける「静物」の美しさは見るものを魅了する。それは美しい。それは花である。そのカラーリリイは、花であることにもまして光であることを知らない花である。あるいはそれは、花であるまえに光であることを知らないでいる花の慄然とした美しさである。それは花の美しさであり、しかしながらそれにもまして、それは光の、あるいは写真の美しさである。そのはかなさは花のはかなさではあるが、それ以上にそれは、光の、あるいは写真のはかなさである。ロバート・メイプルソープがそこに写しとどめているのは、花ではなく光である。これ以上つよく差せば白く立ち枯れてしまい、またこれ以上おぼろげであったならば、その陰のもとにしりぞいてしまい、白く飛びすぎる白さと暗く陰りすぎる暗さのなかで、カラーリリイは茫然としてそこに立ち尽くしているのである。静物が光を受け容れることのむずかしさ、そしてまた光を拒むことのむずかしさ、そのはざままでカラーリリイは如何ともしがたく花であり、光を拒むことのむずかしさとその拒まれがたさのはざままで、あるいはその受け容れがたさと受け容れられがたさのはざままで、それはせきさらなまではだかにされているのである。写真というせきさらさ、もしくはそのポルノグラフィとしての崇高さ。おしなべて、せきさらであるということは、光のなかに投げ出されているものが抱くある痛ましさの感情であるが、またそれは、光のなかに投げ出されてあるものにむけて見る人が抱く痛ましい共感の感情でもある。せきさらであるということ、それは如何ともしがたく孤独である。

そのようにしてあなたはしたのだろう。そのようにしてあなたはそこにするのだろう。みちたりてはつかのまにしりぞいてゆくその女の息のはずれひとにおいて。こっくくとして更けてゆくあなたがたの夏のそのいまそのときのただなかにおいて。海をへだてたあなたがたのメゾンの、その小さな愛の誓のただなかにおいて。あなたはそうにしてしたのだろうし、またそのようにして、あなたはその女としたのだろう。あなたがたの息のあふれる光のただなかにおいて。ひもときつしたためる、あなたがたの息の美しいもつれのただなかにおいて。したためつつひもとかれる、そのような息の、ひもとくことがまたひもとかれることであり、またしたためることがそれじたいにおいてひもとくことでありもしよう、そのような息の

美しいゆらめきのただなかにおいて。こっくくとして暮れてゆくあなたがたのそこに、おぼろげにしりぞいてゆく光をあなたはこのよにもなく美しいとおもふのだろう。そのしずかにかすみわたるあなたがたのそこに、とおどおしくみちよせる潮のひびきをあなたは美しいとこのよにもなくおもふのだろう。時のみのりがみのとすればかくもあるうというありよつのもとで、あわあわと暮れてゆくあなたがたの光を、あなたは、そのようにしてその女のそこに火ともすのだろう。とどこおることなく、またくりかえすことなくすぎゆくものであるにちがいなかるう時と光に、ゆるやかにみちよせる潮と息とのくりかえしを点じて、あなたはそのようにして、つかのまにしりぞくこのいまこのときのこっくくの光をたといえもなく美しいと思ふのだろう。

幼年期に交流のあった母方の叔母は美しい面差しをしており、当時人気のあったフランスの女優アヌーク・エーメに似た美しい眼差しをしていた。その肖像は叔父との複雑なゆくたてもあり、また叔父とのあいだの複雑な経緯もあり、わたしの家には残されていないが、クロード・ルルーシュの古びた映画のフォト・グラビアを見るたびに、今では連絡の取りようのない叔母のことが卒然として思い起こされる。わたしの知る彼女は、無造作に切り揃えた髪と美しい顔立ちをしていた。年齢からすれば今のわたしよりもずいぶん若かったにちがいない。幼いころ、わたしたち子どもはよく写真に撮られたものだ。海辺で姉とともに撮られたり、母と手をつないで撮られたり、雪山で叔母の子どもたちとたわむれているところを撮られたりした。わたしの持っている写真のなかで、叔母によく似たその女優の肖像は、彼女の恋人の肩に親しく寄り添うようにして、もう一方の手に幼い子どもの手を引いている。男の方もまたその手にもうひとりの子どもの手を引いており、子どもは見上げるようにしてその男と話をしている。背景には photo と大きく書かれたリゾート地の家々が並び、わたしの愛するその写真は、ひとつのイマー・ジユが取りうる完結性のなかで、二十世紀半ばのプチ・ブルジョアを端的に代弁する匿名的な家族の肖像として完結している。折りしも時代は、二度目の世界戦争を終えて十数年が経過し、世界の先進諸国では中産階級の勃興とともに小型カメラの普及が顕著になる時代である。初めてボサノヴァという言葉が使われたジヨアン・ジルベルトの「デサフイナード」のなかで、ローライフレックスと写真 (fotografar) という言辭が特権的に歌われていることもある時代を表現していて興味深い。わたしはそれを克明に記憶するにはあまりにも幼く、確かにそれを見た、あるいは確かにそれを聞いたという覚えはないのだが、「イパネマの娘」を歌うアストラッドの擦れた声とアヌークの肖像は、わたしの幼年期に潜伏した、母に近しいが母ではない異性の、折に触れて回帰する内密な幸福のイマー・ジユである。

あなたはそこ、その女のかたわらに身をよこたえて、しずかに暮れおちてゆく陽をうけながら、その女のそれを見るだろう。あなたがそこにあり、そこにあなたがあるというありようのもとでひときわあらわになるであろうそれを、あなたはその女のそこに見いだすだろう。あなたがたの美しい蜜月の誓、その明るい部屋のかたすみ身をよこたえたその女の息のしずかなたかまりのそこにおいて。みちたりてはつかのまにしりぞいてゆくその女の息のおだやかな満ち干のそこにおいて。またあしばやに暮れつつさがてに更けるそのいまそのときのしずかなかがやきのそのそこにおいて。とてもそれであるだろう。とてもそれであるだろう。それは。なすすべもなく、またかくれもなくはだかであるというそのありようのもの

とで、ほかならぬこのいまこのときであるというそのありようのもとで、ひとしおにあなたであるあなたのそれを、あなたはその女のそこにみいだすだろう。ゆたかな時の照りかえしにかがやき、ふたたびの光の美しいこだまに息を吹き、こくいくと更けてゆくこのいまこのときがこのときならぬ時のゆたかさにかがやきをまして、あなたはそこに、あなたの愛しい女の中に、失われてとうにひさしいあなたがたの光があたりしく発芽するのを見るだろう。ほほをよせる。そこにしずかにほほをよせる。わらう。そしてその女の口を吸う。そう。そのようにして、あなたは、やがてそこにあなたがたの幼い芽がきざすであろうことを、失われたあなたがたのおさない芽が芽吹くであろうことを、しずかにゆめみて、こころまちにして、する。

光に対するある疎遠さの感情、もしくは明るさに対するある名伏しがたい死の予感。イマージユは潜伏する。あるいはそれは遅延する。見ることの愉楽にみちた「暗い部屋」のなかで揺れ動いていた光とイマージユは、写真機という暗い部屋のなかでは、深く沈潜することを宿命づけられている。光を感じてそこにその物質的な痕跡をとどめながらも、それはいまだあらわれることをしない。写真機という光の差さない暗い部屋。それは、感受性のゆたかなフィルムを守るために、あるいはそこに潜伏したイマージユを擁護するために、構造上一瞬のまたたきを除いては一切の光を遮断するように設計されている。「暗室」と呼ばれるもうひとつの暗い部屋、そのなかでイマージユがゆるやかに発育するまで、あるいはみずからをひもときつつあらわにするまで、つまり「現像」処理が施されるまで、イマージユは遅延、もしくは潜伏することをみずからの宿命として従わなければならない。「一度にわたる impression 及 révélation」。もしくは数度におよぶそのそれ。現像処理のち印画紙に焼き付けられたイマージユは、おしなべて写真というものが具えてしかるべき崇高なボルノグラフィールムに印しつけられた潜像 (latent image) は、そのせきららさに対する恥じらい、もしくは戸惑いの時間のなかで深い眠りにおちているのである。いまだ来たらぬ時にむけての、もはや過ぎ去ってしまった時はるかな面かけをそこに宿しつつ、あるいはやがて来たれかし啓示のときにむけての、今はなき面影をそこにとどめながら。潜伏するイマージユは、ある明るさに対する飽くことを知らぬ憧れのなかで、あるいは写真機という彼の暗い部屋のなかで、彼自身の幼年期であるところの羞恥と困惑と、いままさに失われつつある希望の夢を静かに夢見ているのである。遅ればせにひもとかれることにむけての、あるいは失われた時であり、またいまだ来たらぬ時でもある、それ。

トライアル版でご覧いただけるのはここまでです

続きをご覧いただくには、ご購入のお申し込みが必要です。ご購入のお申し込みは、P.P.Content Corp. 社所定のフォームにて必要事項を明記のうえ、ご送信ください。なお、お申し込みにあたっては、購読規約をよくご確認ください。

[HTTP://WWW.CENQUEI.COM](http://www.cenquei.com)

LIBRAIRIE P.P.CONTENT CORP.